

詩

よしだ となつ

吉田常夏



下関市・山口市
(1889～1938)

吉田常夏（本名、義憲）は、東京麹町、武者小路邸で生まれる。父が山口市湯田温泉の吉田家の養子に入り吉田姓となる。河井醉茗門下の新進詩人、文庫派のひとりとして将来を囑目されたが挫折、大正はじめごろより方向転換してジャーナリストになる。大正十二年、関東大震災に遭い、帰郷。『関門日日新聞』の社会部長・文芸部長となる。昭和二年、文学青年、脇坂・野村らと『燭台』を創刊。九州一円や山口県内から多くの文学愛好家が集まった。また、自身の昔の顔で中央からも有名な作家・詩人の作品が寄せられた。

（和田 健）

【主な著作】

『朱唇秘抄』（三陽堂書店、大正7年）

『勅撰八代恋歌集』（東雲堂、大正7年）

復刻版『料理小説集』（吉田静代刊、三陽堂、平成7年）